

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 第1回朝霞第三中学校学校運営協議会	
開 催 日 時	令和6年4月16日（火） 午前10時から11時45分まで	
開 催 場 所	朝霞市朝霞第三中学校 図書館	
出 席 者	・白鳥 成章 ・關野 武男 ・本多 武 ・正野 寛樹 ・渡辺 聡 ・野口 邦彦 （司会：教頭 記録：主幹教諭）	
会 議 内 容	（1）令和6年度 学校経営の構想及び方針について （2）令和6年度「地域とともにある学校」について （熟議「良い学校とは」） （3）その他	
会 議 資 料	（1）令和6年度第1回学校運営協議会次第 （2）令和6年度学校経営方針	
会 議 録 の 作 成 方 針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後○か月
会議録の確認方法 司会・記録による確認		
そ の 他 の 必 要 事 項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会の言葉 開始 午前10時

- ・学校教育部教育管理課より職員2名が来校。今年度の学校運営協議会へのあいさつおよび委員報酬について確認

2 学校長あいさつ

校長：前任嶋校長の後を受け継ぎ4月に就任した。和光市、朝霞市の教員、市教委、小学校管理職を経て、久しぶりに中学校へ戻った。県費市費職員含め64名で本校スタートした。昨年度は、職員事故があったが、消極的な姿勢ではなく積極的な姿勢で信頼を回復していきたい。今回、校長、教頭、主幹教諭と管理職がすべて入れ替わった。学校運営協議会に皆様にはご協力をお願いしたい。

3 任命状交付

教頭：本来であれば、中村様に任命状を渡すところだが、今回はやむを得ず欠席されているため後日校長より渡す予定である。また、今回、中村様、狩野様が欠席連絡をいただいている。

4 自己紹介

委員長：昨年度から引き続き、よりより学校運営のために委員の皆様と関わってきたい。今年度よりPTAではなくなるがよろしく願いたい。

- ・各委員より自己紹介
- ・事務局より自己紹介

5 協 議

（1）学校経営の構想及び方針について

校長：学校経営方針説明。

- ・10年20年後子供たちが活躍する時代は今とは全く違う時代になる。赤ちゃんがスマホを触る時代。今どんな力を子供に付けるかが大切である。
- ・学校は「人づくり 未来づくり」 学校はブラックと言われるが教職員には、仕事に誇りを持たせたい。
- ・「育つ」がテーマ 「育てる」ではない。他律ではなく「自立」自ら育つことが大切。今与えている知識が役立つ可能性もあるが。「育つ」ことで自分自身が自立して学ぶ人間になれるのではないか。学校はそういう場である。自分自身で伸びる育つ。
- ・①感性②環境③感化④感謝⑤感動 という5つの感を大切にしたい。
- ・いろんな個性をもっている生徒の「らしさ」を認め合い生かし合う教職員も力に変えていく。「らしさ」を力に変えて三中らしい教育を行っていく。生徒が育ために教職員も育つことが必要。
- ・子供はミスや間違いを通して育つ。保護者も育つことが大切である。親としても変わらなければならない。
- ・子供が育つことで地域も育つ。枕詞は「誰もが」「みんなが」育つ。スピードは子供により異なる。育つスピードの違いを認め合う。

※学校教育目標、目指す生徒像、学校像、教師像について説明

- ・教職員事故の絶無とともにセルフマネジメントでき心身ともに健康な教師を育成する。
- ・楽しい授業の実践、個別最適で協同的な学びを実施する。
- ・生徒指導と教育相談の充実を行い、迅速で丁寧な生徒指導を実施するとともに

に、いじめや不登校の予防と早期発見を、早期解決を図る。

- ・目指す学校像「一人一人が輝き みんなが『育つ』学校」に実現のために、組織的に教育活動を展開 育ちを実感できる学校にする。
- ・多様性を認め合えるようにする。
- ・生徒、保護者、地域から信頼を得られるようにする。
- ・校務支援システムが導入される予定であり、働き方改革につなげていく。
- ・学校事故防止の徹底のために、バイアスを排除し、教職員が互いに確認し合える関係性を構築するとともに、「し心地のよさ」を感じられる職場環境を目指す。
- ・コミュニティスクール、DX化を進める中で地域にどう理解してもらおうか。ご意見をいただきたい。

委員B：個々の「らしさ」を大切にするという方針はよい。一方で学校は、画一的であり、個々の差異を認めることが難しいのではないか。バランスをとることが難しいと思うが具体的にどのように取り組むのか。

校長：「みんなで」と同時に「個を認めつつ」指導に取り組む。クラスの40人は塊ではない 個が集まった40人である。

学習面では、導入されるAIドリルの活用により かなり個に応じた対応ができる。今までのドリルの購入などから変更できる可能性も広がる。不登校生徒については、学校にすることがゴールではなく社会とつなげることが大切。社会との両立を考えていく。具体的な対策については、意見をいただきながら引き続き考えていく。

委員B：ギガスクールは学習に効果があるということか。

校長：これから検証が進むと思う。

委員D：「らしさ」や多様性は大事だが中学校は同調圧力と抑圧の権化である。子供の時もそうだった。そこについていけず不登校が出ることも理解できる。具体的には「らしさ」をどうやって大切にしていくのか。具体的にやりたいこと、なくしたいことがあれば教えてほしい。

校長：学校はみんな一緒をもとめてしまうところがあるが みんなとつながっていくことが大切である。個別の心のケアをしつつ、同調圧力をどう排除するかが大切である。やりすると崩壊してしまう。バランスを考えていきたい。具体的にはまだこれからだが、「らしさ」を中心におきたい。

委員D：「今まではこうしてきた」をぜひ打破してほしい。変革して今までどおりを打破するチャンスである。「やめる」「変える」が大切である。

(2) 熟議

校長：コミュニティスクールは作っていくもの。いい学校の定義は立場によりバラバラな部分もあるので、共通理解が必要である。重なったところが保護者地域の思いを聞かせていただきたい。「よい学校」をテーマに熟議いただき、意見を反映してグランドデザインを作りたい。

(教頭、主幹も参加し、2グループでKJ法にて実施)

【グループでの熟議・発表】

- ①生徒たちの未来につながる学びがあり、来たくなるような学校
 - ・不登校につながらないような教育環境や取組
 - ・同調圧力と一体感や規範意識とのバランス
- ②教職員が働き甲斐やほこりを持てる学校
 - ・成長を実感できる

- ・生徒との信頼関係
- ③保護者との協力
 - ・教員と保護者との信頼関係、共通理解
- ④いじめがない学校、不登校の減少
 - ・互いの違いを認める。居場所がある。
 - ・生徒、教職員の問題意識の共有 など

校長：ご意見を参考に具体策を考え、よい学校を作っていきたい。

教頭：熟議を経たうえで学校長の経営方針について承認いただけるか。
(委員一同拍手を持って承認。)

教頭：承認いただけたことを確認いたしました。

(3) その他

委員A：今回の管理職人事について3人とも替わってしまうのは異例である。
学校運営上、支障が出る可能背があるので、どういうことなのか知りたい。
誰か一人でも残るべきではないか疑問が残る。

教頭：地域の自治会や町内会に回覧、配付依頼している学校だよりについて、電子化し、本校ホームページにアクセスしてご覧いただく形に変更予定であるがどうか。理由は、DX化に伴う、利便性の向上とペーパーレス化、町内会等の負担軽減の観点および個人情報への配慮である。

委員各位：特に問題ないと思う。変えられる部分は変えてよいと思う。

- ・委員の **tetoru** への登録依頼と今後の連絡での活用について周知
- ・次回の学校運営協議会の日程確認
令和6年6月18日(火) 10:00～ 学校図書館

5 閉会の言葉

終了 午前11時30分